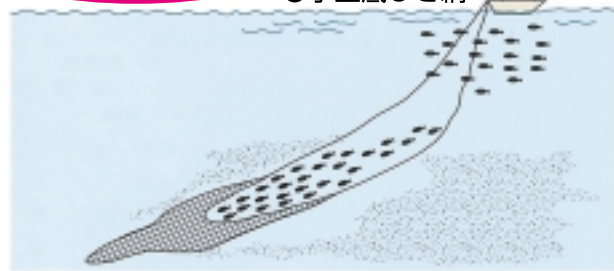


3 京都府で営まれている漁業

底びき網漁業

- 沖合底びき網
- 小型底びき網



主な漁獲物：
ハタハタ、ニギス、ささがれい(ヤナギムシガレイ)、
ズワイガニ、アカガレイ

袋状の網を海底(水深120~350m)まで下ろして船で引っ張り、海底付近にいる魚を獲る漁法です。

底びき網漁業は使用する漁船の大きさによって区別され、沖合底びき網は15トン以上、小型底びき網は15トン未満の漁船を使用します。

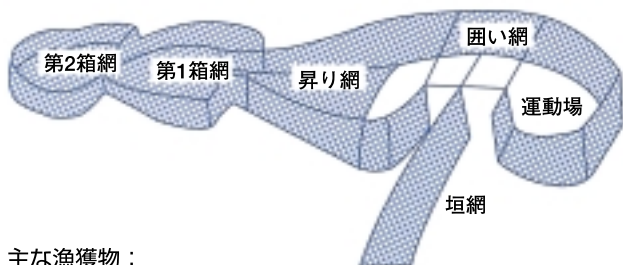
現在、京都府では**11隻**が操業しています(舞鶴5隻、間人5隻、網野1隻)。

おおよそ午前0~3時に出航し、操業時間が短いときは同日午後には帰港、長いときは翌々日の朝に帰港します。

資源保護のために**6~8月は禁漁期間**となっています。

定置網漁業

- 大型定置網
- 小型定置網



主な漁獲物：
イワシ、マダイ、ブリ、サワラ、ケンサキイカ、
あきいか(アオリイカ)

定まった場所にあらかじめ網を設置・固定して回遊魚などを漁獲します。魚の行く手を垣網で遮ると、魚は垣網に沿って囲い網に誘導されます。そして魚が泳いでいるうちに、昇り網→第1箱網→第2箱網へと入り込み、出られなくなるという仕組みです。

夜明け頃に出航し、数隻の船で協力しながら箱網を引きあげ(網起こし)、魚を船に取りあげます。その後、網を元の形になるように海に戻します。

大型と小型の区別は網の大きさではなく、網を仕掛ける水深で決まります。**大型は水深27m以上、小型は27m未満**に設置しているものを指します。

刺網漁業

- 固定式刺網
- まき刺網



主な漁獲物：
ヒラメ、カレイ、ハマチ、ガザミ

魚の通り道を遮るように網を張り、網目に刺さったり絡まった魚を獲る漁法です。

漁獲対象とする魚種に合わせて網目や設置場所(水深)を変えて網を仕掛けることができます。

釣り漁業

- 一本釣り
- はえなわ
- ひきなわ
- イカ釣り



主な漁獲物：
メバル、タチウオ、ぐじ(アカアマダイ)、あきいか(アオリイカ)、ケンサキイカ、ヒラメ、マダイ

糸と釣り針を使用し、**針先にエサをつけて魚をおびき寄せ**、それを食べた魚の口に針がかかります。

はえなわ(左図)は幹となる長い糸(幹縄)に多数の短い糸(枝縄)がついており、その先端に多数の針が取り付けられています。

採貝藻漁業

- 水視
- アサリ掘り
- 潜水

主な漁獲物：
サザエ、アワビ、イワガキ、ワカメ、モズク

沿岸の浅い磯場で行います。

船上から箱メガネで海底をのぞき、竿先(さおさき)に付けた鈎(かぎ)でサザエなどを採捕する方法を「**水視(すいし)**」といいます(左図)。海中をのぞきながら片手にヤスなどをもち、もう一方の手に櫂(かい)を持って船を操るといった高度な技術が必要とされます。

「**潜水(素潜り)**」は非常に体力が必要な漁業で、京都府では若い漁業者主体に営まれています。

養殖業

養殖トリガイ
(左)開始サイズ
(右)収穫サイズ

養殖トリガイの出荷前規格検査 (京丹後市) 養殖マグロの取り上げ (伊根町)

主な対象種：
ブリ、マダイ、マグロ、カキ、アワビ、トリガイ、イワガキ、ワカメ

魚や貝類の子供(稚魚、稚貝)を大人(出荷サイズ)になるまで育てる漁業を「**養殖業**」といいます。

京都府では全国的にも珍しい**魚介類の養殖**が行われています。

舞鶴湾、栗田湾、宮津湾、久美浜湾では海洋センターで生産されたトリガイの稚貝が漁業者により約1年間育てられ、「**丹後とり貝**」として出荷されています。大規模なトリガイの養殖に成功しているのは全国でも京都府だけです。

トリガイやイワガキなどの二枚貝は海水中のプランクトンなどを食べて成長するので、餌を与える必要がなく、環境負荷の比較的小さい養殖方法です。

また、伊根湾ではクロマグロの養殖が行われています。稚魚から育てるのではなく、近海で獲れた大型魚を生け簀に収容し約半年間育てる「**短期養殖(蓄養)**」という方法です。

その他の漁業

桁びき網漁業：底びき網漁業の一つですが、網の口に「桁」という枠のついた網を使います。主な漁獲物はナマコ、トリガイ。

かご漁業：主な漁獲物はカニ類、バイ貝(エッチュウバイ)。

●漁業種類別生産高(平成23年)
[水産事務所調べ]

生産量、生産額ともに**大型定置網**が最も多く、大中型まき網漁業がなくなった平成14年以降、この傾向が続いています。

全国の漁業種類別漁獲量をもても、大型定置網が70%以上を占める都道府県は京都府だけです。定置網ではイワシ類などの比較的安い魚が多いため、生産額に占める割合は生産量の割合よりも低くなっています。一方、底びき網では、生産額に占める割合は生産量の割合よりも高くなっています。これは、単価の高いズワイガニなどが多く漁獲されるためです。

